

# 12月は寄付月間！

京都市ユースサービス協会事務局 米原 裕太郎

「寄付月間」とは、寄付の受け手側が寄付者に感謝し、寄付者への報告内容を改善するきっかけとなること、また多くの人が寄付の大切さと役割について考え、寄付に関心を寄せ、行動をするきっかけとなることを目指した月間です。

日本では、約7割の人が「社会に貢献したい」と考えているといわれています。未来に向けた取り組みとして、2015年から12月の1カ月間を「寄付月間～ Giving December～」とすることがNPO、大学、企業、行政、国際機関などで寄付に係る主な関係者によって決まりました。

## ～主なイベント～

寄付は自発的なものです。だから寄付月間に関する取り組みも強制しません。自分のできることを、できる形でやるのが大切です。この新しいムーブメントを広げたり、あるいは実際に寄付をしてみたり、あなたらしい寄付月間を考えてみませんか？

**12月7日** 寄付月間～ Giving December ～記念シンポジウム @国連大学

**12月16日** ビル・ゲイツと語る日本、未来 @浜離宮朝日ホール

**期間中** 「100の寄付への感謝の言葉」プロジェクト

その他様々なイベント、取り組みが行われます。詳しくは「寄付月間～ Giving December～」のホームページで。 <http://giving12.jp/>

欲しい未来へ、  
寄付を贈ろう。



Giving  
December  
寄付月間 2015

## 日本人と寄付について

日本は欧米と比べると寄付文化が根付いていないといわれています。でも古くから寺院や仏像建造のためのお布施や、町内会費、赤い羽根共同募金など意外と身近な所で、「寄付」をしてきています。また、2011年に発生した東日本大震災では、多くの人が募金や「寄付」を行っており、前年と比べると約1.8倍もの金額が復興への想いとともにも託されました。

いま日本社会では、子どもや若者の貧困や、社会的に孤立している若者をどうするか？ という問題など、大きな社会的課題が山積しています。かつては市民たち自身の力で行動・解決してきたこれらの課題は、いまやそのほとんどは行政や企業が解決の担い手となり、私たちは対価として税金やサービス料としてお金を支払っています。

しかし、立ち返ってみると、日本人がこれまで行ってきた「寄付」の根底には「みんなで力を合わせる」「お互いを助け合う」という心があったと思います。欧米の寄付文化の背景には、宗教的な価値観があるといわれますが、それとは違う日本ならではの寄付の土壌が存在しています。「寄付」は実際の活動には参加できないけれど、社会を良くしていくために活動している誰かに思いを「託す」行為です。また、「寄付」といっても、必ずしもお金だけではありません。ボランティア活動も立派な「時間の寄付」です。社会のためにできることとは…… 12月からの寄付月間、あなたは何を想い、何をしますか？

## ～ご寄付をいただきました～

いただいたご寄付については、当協会の取り組みに活用させていただきます。

また、寄付だけでなく、当協会の事業や施設運営にも日ごろから大きくご協力いただいております。

この場を借りて改めて御礼申し上げます。

2015年8月～ 11月まで

橋本 達雄 様  
杉山 征人 様  
匿名希望 様

今年度累計 130,000円